広島郵便貯金会館

オープンして1年

「スバラシイ音響効果」

賛辞を残し 著名音楽家は去った

ベニヤで長い残響音

187日間に50万人が入場

近代的な設備を十分備えた〝新しいホール〟と期待されてオープンした広島市白島町の広島郵便貯金会館（上田一之総支配人）が十月二十三日で一周年を迎えた。しだいに市民のなじみになっている会館ホールには、この一年間に多くの世界的な音楽家や楽団、バレエ団などが訪れ「すばらしい音響の効果」と賛辞を残して帰って行った。

9割近くが興行

現在広島市には、郵便貯金ホールのほかに市公会堂と見真講堂の二つの大きなホールがある。だができたのが公会堂が三十年、見真講堂が三十七年といずれも古く、音楽演奏の際の音響効果などはいま一息。それだけに同会館の建設には市民たちから強い期待がかけられていた。

同ホールの収容人員は千八百人。公会堂の千七百五十人とはほぼ同じだが、見真講堂の七百人よりはるかに多く収容出来る。

まず一年間の利用状況をみると、利用日数は百八十七日。二日に一日の割で利用された。学会や大会などでの利用もあるが、九割近くは興行。旧広島市内の人口にほぼ匹敵する五十万人が延べで入場した。同ホールのオープンで、公会堂などではこの裏ごろから利用者がいくらか減ってきているという。

興に乗りアンコール2回

最も利用率の高い興行も、音楽、バレエ、演劇、能楽……といろいろ。音楽といっても世界的に高名な音楽家や楽団の演奏から流行歌手の歌謡ショーまでピンからキリまで。

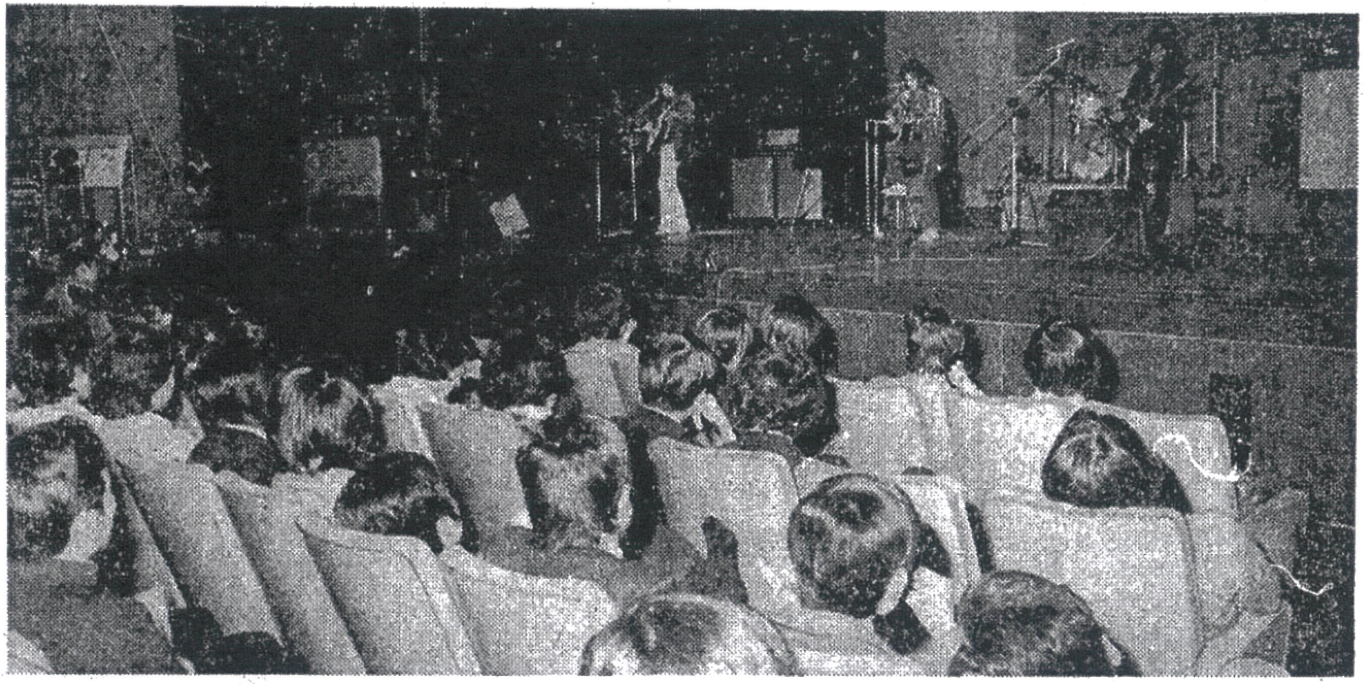
有名どころを拾ってみると、ピアノのウィルヘルム・ケンプ（四十七年十一月）、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団（ことし十月二十三日）、モスクワ芸術劇団バレエ団（同一月）、民族舞踊の国立平壌マンスデ芸術団（同八月）など。

この芸術家たちを迎えて、ごい自慢なのはホールの音響効果や照明などの舞台施設。ケンプは興に乗ったのか、珍しくアンコールに二度もこたえ、「音響効果は世界一」とほめちぎって帰った、という。ドレスデン管弦楽団は「音響は本国（東ドイツ）の国立劇場と同じ」と同ホールでの演奏を楽んだらしい。

好評の秘密はホールの中がベニヤ張りで残響音が長い点。「ホール全体が楽器のようなもの」と自画自賛する。このほか同ホールは能のために総ヒノキの能舞台もセット出来る。

難点は狭い舞台

しかし難点もある。舞台が少し狭いこと。普通の演奏などではかまわないが、モスクワバレエ団やマンスデ芸術団の公演には狭く、「セットを全部見せられない」と団員たちも残念がっていたという。

会館の島一雄総務課長は「利用の延びは順調で、ホールはもう半年先までかなり予定が決まっている。会館は郵政省内部だけのための施設ではないので、一般にも大いに利用して欲しい。またこれからもドシドシ立派な芸術家たちを招いて、市民の人たちに鑑賞してもらいたい」と意気込んでいる。

連日盛大にショーなどが開かれる広島郵便貯金会館